

病害虫発生予察指導情報 (ネギベと病)

令和6年3月28日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

3月中旬～3月下旬にかけて、他県においてネギベと病、またはタマネギベと病の注意報が発令されています。向こう1か月の気象予報では、本県でも本病の好適発病条件となることが予想されます。今後の気象条件によっては発病が増加する恐れがありますので、防除を徹底しましょう。

2 情報の根拠

- (1) 3月27日の現地ほ場巡回*の調査において、本病の発生は認められていない。
*3月27日に巡回調査を実施。境港市5ほ場、米子市5ほ場、25株/ほ場の見取り調査。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が平年並か多い見込みである(気象庁広島地方气象台、2024年3月28日発表)。
- (3) 本病は、15～20℃程度で降雨が続くと発病に好適な条件となる。高温条件により病勢は停滞するが、今後の気象条件によっては、発生量が増加する恐れがある。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 発病すると急速に蔓延するので、発病前からの防除に努める。
- (2) 予防散布には、アリエッティ水和剤800倍液、ジマンダイセン水和剤600倍液、ランマンフロアブル2,000倍液、リドミルゴールドMZ1,000倍液などを使用する。
- (3) 発病を認めたら直ちに、アミスター20フロアブル2,000倍液、フォリオゴールド1,000倍液、プロポーズ顆粒水和剤1,000倍液、メジャーフロアブル2,000倍液、レーバスフロアブル2,000倍液などを散布する。
- (4) 同一有効成分及び同系統の有効成分を含む薬剤は連用しない。また、有効成分ごとの総使用回数及び収穫前日数に注意して薬剤を選定する(表1、表2)。



写真1 ネギベと病(葉の病徴、黄丸)

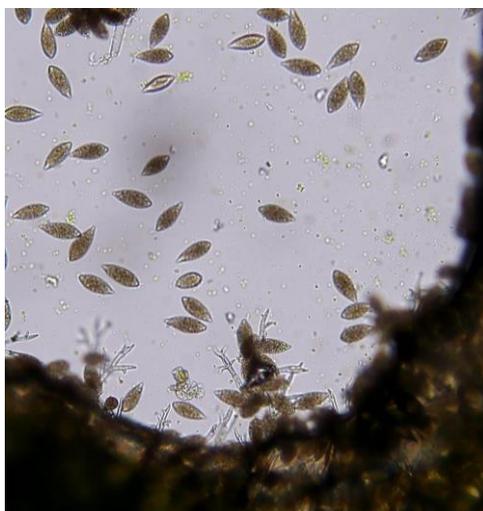


写真2 分生子および分生子柄(光学顕微鏡100倍)

表1 ネギベと病の主な防除薬剤（令和6年3月28日現在の農薬登録内容）

RAC コード*	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分	
F:11	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫3日前まで	4回以内	アゾキシストロビン	
F:P07	アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前まで	3回以内	ホセチル	
F:M03	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで	3回以内	マンゼブ	
F:4 F:M05	フォリオゴールド	800～ 1000倍	収穫14日前まで	3回以内	メタラキシルM	TPN
F:40 F:M05	プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル ロピル	TPN
F:11	メジャーフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ピコキシストロビン	
F:21	ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	4回以内	シアゾファミド	
F:4 F:M03	リドミルゴールドMZ	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	メタラキシルM	マンゼブ
F:40	レーバスフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	マンジプロパミド	

*農薬の作用機構分類、同じ番号は同一系統であることを示す。

表2 有効成分ごとの総使用回数（令和6年3月28日現在の農薬登録内容）

RACコード	有効成分名	総使用回数
F:4	メタラキシルM	5回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
F:11	アゾキシストロビン	5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内)
	ピコキシストロビン	3回以内
F:21	シアゾファミド	4回以内
F:40	ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内
	マンジプロパミド	2回以内
F:M03	マンゼブ	3回以内
F:M05	TPN	4回以内(土壌灌注は1回以内、散布および無人航空機散布は合計3回以内)
F:P07	ホセチル	3回以内